

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：若野三郎 幹事：吉山宥海

情報委員長：清水 忠

1978・10月5日 第125号

創立五周年記念例会特別号



石川県無形文化財加賀友禅技術保存会会員
日本工芸会正会員・金沢北ロータリークラブ会員

水野 博氏画



創立5周年を迎えて

会長 若野 三朗

本日こゝに私共金沢北ロータリークラブが5周年を迎えるに当り、R.I.第261地区荻布ガバナーを始め、来賓各位、パストガバナー、中島特別代表、市内各ロータリークラブ会長・幹事の方々の御臨席を頂き、さゝやか乍ら記念例会を開催させて頂きます事は私達会員一同此の上もない慶びであり、心から御礼申し上げます。

私達は、昭和48年10月3日、金沢東ロータリークラブをスポンサークラブとして、創立会員38名を以て発足いたしました。今日漸く51名の会員に成長して参りましたが、この間49年7月から51年12月迄皆出席を続け、地区大会で出席表彰を受けました。又昨年は“意義ある業績賞”を受賞する等“最少の会員・最大の奉仕”形より内容の充実”のクラブスローガンの下に、充実したクラブ活動を続けてまいりました。

是全く歴代ガバナー諸先輩はもとより、特別代表始め、歴代会長、役員、会員の皆々様の御指導御奉仕の結実であると存じ、誠に感謝に耐えない所でありまして、深く敬意を表するものであります。

今日こゝに5年という節を区切りとして、過去の実績を踏まえて未来の飛躍を図りたいと考えております。特に昨今、世相人心の稍もすれば乱れ、奉仕の精神が薄れゆくとも云われる中であって私達一人一人が個人生活に於て、職業生活に於て、社会生活に於て、確固たるロータリアンの信条に基づいて行動して参りたい所存であります。

ロータリーの綱領の実践は遠く且つ高い次元を求めていると申し上げます。五年を経た私達のクラブも尚未熟であり、低俗に流れる部門の多々あることを否定出来ません。

今後は、私達クラブの各人がより完成されたロータリアンを目指して、初心を忘れる事なく、より高遠なロータリー綱領の実践を期して精励する所存であります。

何卒、今後とも、皆々様の変らざる御指導と御鞭撻を、賜りませう様心から御願ひ申し上げます。



創立5周年を祝して

国際ロータリー第261地区ガバナー 荻布 貞雄

金沢東R.C.柴田元会長他移籍のキーメン6名を含め、38名のチャーターメンバーを以って1973年10月3日、金沢第五のクラブとしてロータリー拡大の根幹しが行われてもう5年、歳月の移りの早さを思いながら、茲に心から祝意を表すものであります。

古来10年を一昔としてその年輪を顧りみながら、将来を期するを習いと致して居ります。その小節が今度の五周年……山登りで云えば5合目、然もこゝは右か左の「追分口」かも知れません。一度は佇んで清涼を味い愈々本格的な歩みを続けて頂きたいものでございます。

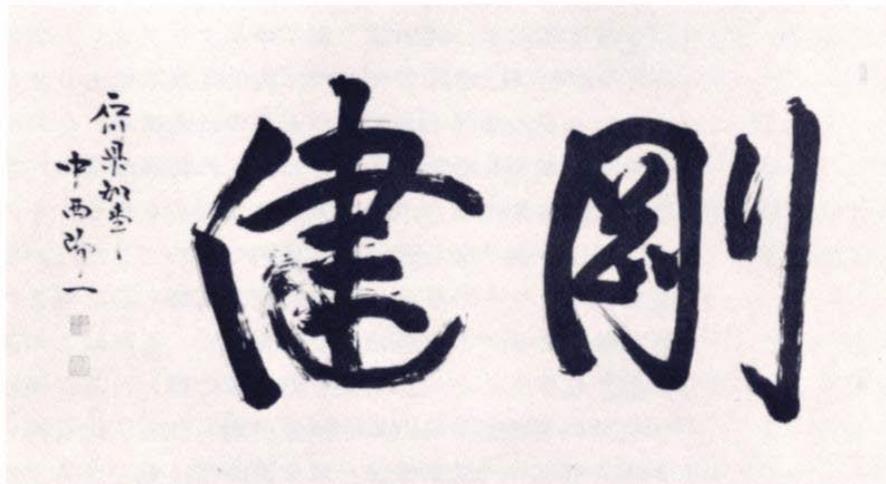
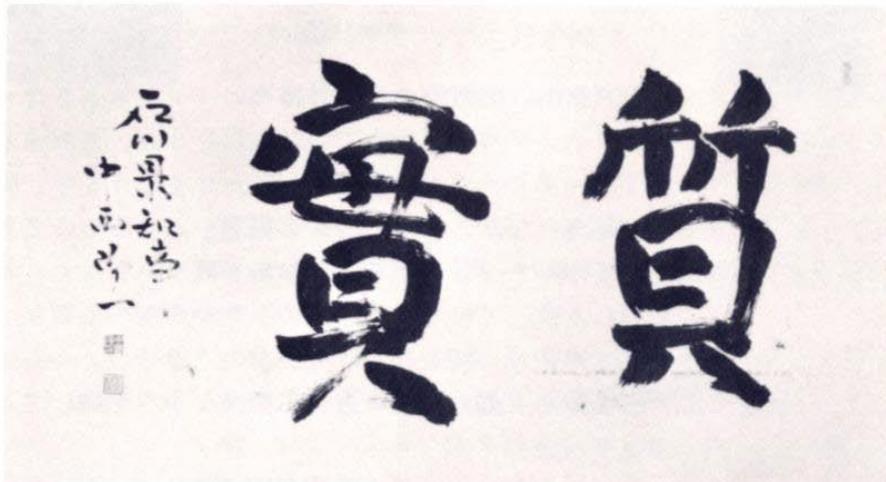
想えば、金沢北ロータリークラブのスタートは誠に華々しいものでありました。例えば“お、ロータリアン——職業奉仕とは”の冊子が私共に届けられたのは実に印象的でありました。チャーターナイトの神守パストガバナーの特別講演、ホストされた研修会での塚本、若松両パストガバナーの特別講演の内容がクラブで編集、領布され多くのロータリアンの心を打つ、その格調と共にクラブの名を一躍全国に知らしめたものでした。か様に発足の時点でロータリーの基本、職業奉仕の真髓を心に刻まれたことは本当に幸せだったと申さねばなりません。さればこの其の後喋々する迄もありませんが、立派な出席率に窺われる、積極的な活動力ロータリー財団や米山奨学奨金に現われる広大な思いやり、更には地区内随一の活動報告、事業計画書に見られるクラブの高遠なる意気、また又クラブ公式訪問で感知出来ますクラブの雰囲気の中にスッカリ、ロータリーは定着している様に存じます。

ロータリーは来る1980年に75周年を迎えます。この記念すべき75周年のためにも国際ロータリーの優秀細胞の範として、ふるって“意義ある業積”に挑んで下る様お願いしたいものであります。そうすることが、このクラブの伝統造りに錦上花をそえ、先輩方が拓き培ったその土壌を更に豊かにするものだと思じます。どうぞこの五周年を機とされて、より積極的に皆様方のロータリーへ愛着の手をさしのべて頂くよう激励の言葉を添えてお祝い申し上げます。

創立五周年記念事業

◇県立武道館掲額寄贈

柔道場、剣道場各一幅



◇ロータリー財団特別寄附

ポールハリス・フエローへ

越野 民男	宗田 市太郎
岡田 林太郎	若野 三朗
中村 省三	釣見 栄一

◇記念講演開催

鎌倉RC 蓮田 修吾郎 氏

五年のあしあと

◇三つの特色

I. 栄光に輝くロータリー文献の出版

記念式典や研修会の講演を集録した“お、ロータリアン”は、格調高くロータリーの真ずいを突いた教科書として、全国津々浦々のロータリアンに愛読されている。

II. 意議ある業績賞に輝く地域開発

わがクラブの主唱によって、地域ぐるみの金沢市城北地区開発促進同盟会を設置し、地域開発の積極的活動を展開している。

III. ユニークな委員会づくり

クラブ奉仕の意欲的な事業活動のため、例会、拡大、企画、情報、親睦、修練のユニークな六委員会制を採用している。

◇数字から見た、新生5ヵ年の躍動

◇会 員 数

昭和48年10月3日	(クラブ創立メンバー)	38名
昭和49年7月～50年6月	(1名退会、5名入会)	42名
昭和50年7月～51年6月	(3名入会)	45名
昭和51年7月～52年6月	(1名死去、3名退会、4名入会)	45名
昭和52年7月～53年6月	(2名退会、3名入会)	46名
昭和53年7月～53年9月	(5名入会……現在)	51名

この5ヵ年……退会者は7名あったが、新入会員20名を得て、5ヵ年の目標、50名を突破することが出来た。

◇出席率

昭和48年10月～49年6月	99.32%
昭和49年7月～50年6月	100%
昭和50年7月～51年6月	100%
昭和51年7月～52年6月	99.08%
昭和52年7月～53年6月	97.79%

この5ヵ年……連続2回100%の実績を挙げることが出来、97%を割った年度はなかった。

◇ニコニコBOX

昭和48年10月～49年6月	217,950円
昭和49年7月～50年6月	559,275円
昭和50年7月～51年6月	749,693円
昭和51年7月～52年6月	808,505円
昭和52年7月～53年6月	953,746円

この5ヵ年……善意と友好のほほえましき寄金は、年々累増し、目標の年間100万円は目前となった。

◇米山記念奨学会

現在の累計額は、昭和53年9月末現在	1,463,000円
記 その内容は 普通寄付金	425,000円
特別寄付金	1,038,000円

この5ヵ年……普通寄付は1名年間2,000円。特別寄付は1名年間4,000円(1,000円4回)の累積である。特別寄付の内には、小杉善二会員のクラブ創立5周年を記念して30万円。また、柴田三郎会員はロータリー25周年を記念しての25万円と、創立5周年を記念しての5万円の計30万円があり、両会員は“米山功労者”の榮譽を得ることとなった。

かくしてクラブの累計は100万円を遙かに突破し、遂にクラブも念願の“米山功労者”に列する目標を達成した。

◇ロータリー財団

この5ヵ年……累計は(53年8月末現在)3,923,50ドルにて800%に到達したが、創立5周年を記念して、越野民男、宗田市太郎、岡田林太郎、若野三朗、中村省三、釣見栄一ら前・現会長がポールハリス・フェローの榮譽を得る特別寄付をしたので昭和53年9月末現在累計は7,823,50ドルと一挙に倍増し、クラブ実績は、遂に1,500%を突破する躍進となり、クラブ5周年記念に一段と華をそえる事となった。

この5年、修練への道を求めて

◇ロータリー文献による研讃

ロータリーの道を身につける一助に、諸先生の名著書を会員に頒布し、精読を勤め、研讃を計った。

1. 神守源一郎（東京東RC・パストガバナー）
“ロータリーで言う職業奉仕とは”
2. 佐藤千寿（東京東RC・パストガバナー）
“ようこそロータリーへ”
3. 佐藤千寿（東京東RC・パストガバナー）
“青年に期待する”
4. 佐藤千寿（東京東RC・パストガバナー）
“ロータリーは人を作る”
5. 安積得也（東京南RC・社会評論家）
“一人のために”
6. 渡辺和子（ノートルダム岡山清心女子大学学長）
“美しい人に”
7. 塚本義隆（大阪RC・パストガバナー）
“むづかしくないボケショナル・サービス”
8. 中村正己（伊丹RC・内科医）
“ロータリー・インフォメーション51週”
9. 梶山謙二（甲府西RC・産婦人科医）
“急がず、そして休まずに”
10. 第361地区職業奉仕委員会編集
“職業奉仕事例集”
11. 加賀ロータリークラブ編集
“ロータリーのしおり（その1）”
12. 金沢北ロータリークラブ編集
“お、ロータリアン＝職業奉仕とは”
13. 金沢北ロータリークラブ編集
“お、ロータリアン＝ロータリーとは”

◇特別講演による啓発

毎週の例会における講話には、その選択を吟味しているが、更に機会を設けて、特別企画による諸先生の講演を拝聴し、啓発を計った。

1. 神守 源一郎 (東京東RC・パストガバナー)
 “職業奉仕とロータリー”
 昭和49年6月、当クラブの認証状伝達式における記念講演。
2. 坂本 惣平 (高知中芸RC・二宮尊徳研究家)
 “ロータリー精神と二宮尊徳”
 昭和49年9月、当クラブの創立1周年の記念講演。
3. 塚本 義隆 (大阪RC・パストガバナー)
 “ロータリーの根幹とは”
 昭和49年11月、当クラブ主催の“職業奉仕に関する石川県研修会”にて。
4. 若松 徳衛 (伊勢RC・パストガバナー)
 職業奉仕の指導と若干の問題にふれて
 昭和49年11月、当クラブ主催の“職業奉仕に関する石川県研修会”にて。
5. 安積 得也 (東京南RC・社会評論家)
 “医学辞典にない三つの現代病”
 昭和50年10月、当クラブの創立2周年の記念講演。
6. 渡辺 和子 (ノートルダム岡山清心女子大学学長)
 “人間らしさを求めて”
 昭和51年3月、当クラブがホストとなって開催のI.C.G.F.の特別講演。
7. 安積 得也 (東京南RC・社会評論家)
 “四つのクラブの七つの驚き”
 昭和51年3月、当クラブがホストとなって開催のI.C.G.F.の基調講演。
8. 佐藤 千寿 (東京東RC・パストガバナー)
 “ポール・ハリスの言葉より”
 昭和51年10月、当クラブの創立3周年の記念講演。

◇録音テープによる確認

特に感銘を深めた最近の講演の中から録音再制して、会員に頒布し、感激を新たにするよう、探求を計った。

1. 安積 得也 “四つのクラブの七つの驚き”
 当クラブがホストとなったI.C.G.F.の基調講演
2. 渡辺 和子 “人間らしさを求めて”
 当クラブがホストとなったI.C.G.F.の特別講演
3. 佐藤 千寿 “ポール・ハリスの言葉より”
 当クラブの創立3周年の記念講演
4. 清水 忠 “中国の思想に学ぶ”
 当クラブ理事・情報委員長の例会講話

五年のあゆみ(1)

《1973・10～1974・6》

初代会長
山田安隆



初代幹事
大村精二



◇金沢北(仮)ロータリークラブ創立総会 (1973・10・3)



秋晴れの10月3日、金沢北(仮)RCは孤々の声をあげた。

卯辰山の一角、浅野川の清流を俯瞰する景勝の地ホワイトハウスに、安田地区ガバナーをはじめ多数の来賓を迎え、30名のチャーターメンバー出席の下、盛大かつ厳粛に創立総会が行われた。

総会は定刻12時、中島特別代表の点鐘によって開幕、国歌、ロータリーソング奉仕の理想斉唱の後、まずスポンサークラブ金沢東RC鈴木会長が開会の言葉として、「1973年地区大会前に金沢北RCを発足させることは前年度からの悲願だった。今日、関係者の努力で立派なクラブが誕生したことは誠によろこばしい。」とのべられた。

引続き金沢東RC山田幹事によって、来賓、会員の紹介があり、仮議長に中島特別代表を選任し、定款、細則の採択、理事選出した。そして新理事によって第1回理事会を別室で開き、初代会長に山田安隆氏、幹事に大村精二氏を選任した。

◇国際ロータリー加盟認証状伝達式 (1974・6・16)



薫風かおる6月16日、緑したたる本多の杜を背景に、金沢の中央、北陸放送会館で、金沢北ロータリークラブの国際ロータリーの加盟認証状伝達式が盛大かつ厳粛に開かれた。

中西石川県知事、安田第361地区ガバナーはじめ、内外多数の来賓と全国33クラブから馳せ参じた430名の会員に祝福され、金沢東ロータリークラブのスポンサーの下に、38名のロータ

リアンは今新しくはぐたいたのである。

それは、1905年シカゴの一青年P・ハリスが2、3の友人と語らって、友愛と奉仕の城をつくり上げたあの創始の時を思い起させるものであった

五年のあゆみ(2)

《1974・7～1975・6》

2代会長
山田 安隆



2代幹事
大村 精二



◇ロータリーの梅林



当クラブ創立記念事業の一つとして、金沢市当局と協議し、金沢市卯辰山市民公園の一割約5,000平方メートルの地域に、市花“梅”にちなみ、併せて緑化と環境美を目指して“ロータリー梅林”の新設を計画し、当クラブは先ず100万円を金沢市に贈り、その基金とし、更に金沢市に在る他の4ロータリークラブに協力を求め幸い賛助を得たので、永年継続事業として理想境を完成の目標を樹立した。

◇職業奉仕に関する石川県研修会 (1974・11・27)



当クラブがホストとなり、県内各クラブの会長、幹事、職業奉仕委員長70名の参集を求め、地区職業奉仕委員長若松パストガバナー及び、その道の権威者大阪RC塚本パストガバナーを招き、講演及び討論のリーダーをお願いし、“職業奉仕研修会”の開催を提唱し実現、この両氏の講演を活字に再現した。



当クラブが編集出版の“お、ロータリアン＝職業奉仕とは”は、神守、塚本、若松の3パストガバナーの講演集で、出版以来全国的な反響を巻き起し、遂に第4版の増刷となり、すでに8,000部を超える盛況であり、クラブ自身はもちろん、地区に全日本ロータリアンのこよなき職業奉仕の教科書として洛陽の誌価を高め、クラブの良き奉仕事業となった。



国際ロータリー加盟認証状伝達式の記念事業として卯辰山公園の一角に金沢市内4クラブの協力を得て「ロータリーの梅林」を完成した



1975年「お・ロータリアン＝職業奉仕とは」出版 9,000部
1977年「お・ロータリアン＝ロータリーとは」出版 5,000部



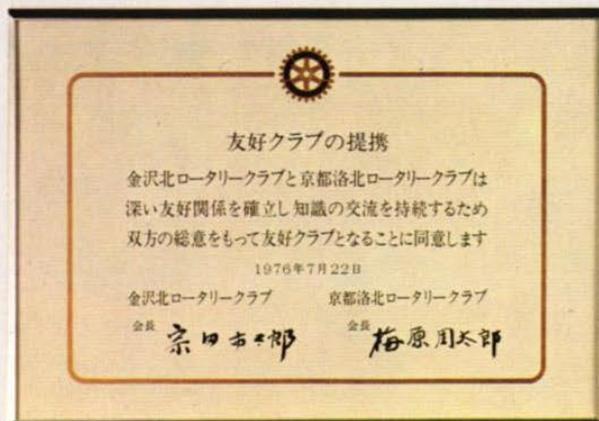
1977年6月
国際ロータリーより「意義ある業績賞」受賞



1974～1975 1975～1976出席率100%
表彰バナー



第361地区出席率第1位 職場親善早朝野球大会優勝旗
表彰トロフィー



1976年7月22日
京都洛北RCと友好クラブ提携



1978年6月22日
U.S.A.ヨバ・リンダRCとの友好クラブ提携











五年のあゆみ(3)

《1975・7～1976・6》

3代会長
越野民男



3代幹事
浅田豊久



◆全員参加のI.C.G.F.大成功

ことしの石川県第1分区I.C.G.F.を当クラブがホストし、“素晴らしきロータリー、だけど現状は”のテーマで衆知を結集した討議を行い、講師の名講演と共に、大きな成果をあげた。

とき：昭和51年3月28日

ところ：金沢市北陸放送会館

記念講演

ノートルダム
清心女子大学学長
渡辺和子先生



東京南RC
社会評論家
安積得也先生



参加クラブと出席数：25クラブ 670名

◆金沢城北地区 開発促進同盟スタート

当クラブのテリトリーの、保存と開発の調和ある整備発展を趣旨として、主クラブの主唱による開発促進同盟が設立され、地域ぐるみの開発へのスタートを切った。

とき：昭和51年3月27日

ところ：金沢市石川トヨペット(株)本社

会員員：当クラブ会員・城北ライオンズ会員

校下町会長・地区有志



五年のあゆみ(4)

《1976・7～1977・6》

4代会長
宗田市太郎



4代幹事
平尾信明



◇3周年記念特別講演とお、ロータリアン刊行

創立3周年記念特別例会で、記念講演“ポール・ハリスの言葉”を拝聴し、出席した石川県内122名のロータリアンに深い感銘を与えた。その内容は、前年度I.C.G.F.記念講演“人間らしさを求めて”(渡辺和子先生)、“四つのクラブの七つの驚き”(安積得也先生)と共に“お、ロータリアン第2集=ロータリー精神とは”の出版に発展した。

と き：昭和51年10月7日

と ころ：ホワイトハウス

講 師

R.I.358地区パストガバナー

佐藤千寿先生



◇京都洛北RCとの友好提携

51年7月22日、ホワイトハウスにおいて、両クラブ会員・ビジター68名出席の下京都洛北RCとの友好提携式が挙行され、友好提携が実を結んだ。

引続き、9月25日洛北RC会員34名を迎えて、親睦の宴、オープンゴルフコンペを持った。



五年のあゆみ(5)

《1977・7～1978・6》

5代会長
岡田林太郎



5代幹事
釣見栄一



◆第2回職場対抗野球大会・卓球大会

会員の職場相互の友好と親睦、さらにロータリー精神をより浸透すべく職業奉仕委員会事業の職場対抗の早朝野球大会は2年目を迎え今年度も8月1日より13チームが参加して熱戦が展開された。参加選手180名、炎暑の中汗を流した。ロータリーの広報と拡大の実がフェアなる親睦、スポーツ精神の昂揚を通じてさらに拡大されることを願う。

夏の早朝野球に対して、室内スポーツ第2回卓球大会はメンバーの各職場の女子従業員並びに会員の家族を対象にして2月26日、城北体育館に於いて実施した。10チーム30名、和気あいあいの中にも熱気あふれる真剣な試合が繰り広げられ、従業員の親睦コミュニケーションの場として大いにその成果を取める事が出来た。



◆ヨバ・リングダRCと友好提携成る

当クラブとのマッチドクラブ、U.S.A.ヨバ・リングダロータリークラブとの友好提携は、当クラブ岡田会長とヨバ・リングダRC直前会長デビット・栗栖氏が5月RI東京国際大会を機会に会談、提携について懇談を行った。その後、極めて交友裡に進展し、6月8日当クラブ例会に栗栖氏を迎え会談。次いで6月22日友好クラブ提携書を交換するに至った。

今後は相互の親善を深め、知識の交流とクラブ活動の積極化のため相互に努力し国際親善、深い友好関係が一層密になる様努めねばならない。



ロータリーに想う



小杉 善二

私事、ロータリーは心を豊かに健康を保ち、事業に専念し、おのが職業を通し、地域社会に奉仕出来る素晴らしい集いであります。

金沢北RC創立 昭和48年10月3日

チャーターメンバー 当地61才

5ヶ年皆出席

東京国際大会出席 昭和53年5月

地区年次大会出席 高山、上野、金沢

地区協議会出席 桑名、山中、朝日

I.C.G.F. 出席 金沢、金沢東、河北、加賀、小松

社会奉仕委員長

修練委員長

副会長

ロータリーは私の健康を保ってくれた。

兵隊検査は丙種合格、若い時から健康に恵まれず、すべてが消極的な私がロータリークラブに入会なんてとんでもない、他に迷惑をかけずにお付き合いが出来るだろうか、当時のいつわらざる心境でした。今こゝに5ヶ年の反省と、会員諸兄の暖かくお付き合い下さったことに、心から厚くお礼を申し上げます。

私のロータリー感

ロータリー精神とは、自分自身の一日一日の出来ごとの中にあると信じております。勉強会に参りますと、ガバナー諸先生は、手続要覧にありと教えられます。大変むづかしい。私には当クラブ要覧が便利です。

集いて図る心はひとつ

ロータリーの綱領 四つのテスト

ロータリアンの信条 クラブ定款

クラブ細則

私のロータリーは、当クラブ要覧を基本とし、細く長く常織の修練の積み重ねであると心がけております。



土原 一二

我が金沢北ロータリークラブは、この10月初めで、満5周年を迎えることになる。ロータリーの「ロ」の字も知らない私に、この間何を果たたであろうか。会員諸君の友情は、いうに及ばず、例会の楽しさのほかに、奉仕の精神の一端を教えていたと思っている。

この5年間、診察机上の「四つのテスト」「ロータリー信条」のパネルは、常に奉仕の理念と実践を指示している。又毎日の反省をも求めている。

入会后、私の心に刻まれた次の二つの語句即ち、
Service above self (超我の奉仕)

He profits most who serves best. (最もよく奉仕するものに、最も多くの利得あり)

これ等は我々ロータリアンの実践の裏付けとなる倫理であり、これこそロータリーの精神であり、我々は片時も忘れてはいけない。

然し人間的弱さからか、我が身だけの利益をはかる心、即ち「利己心」は、とかく他人の為に尽そうという崇高な「利他心」に打ち克つ場合が甚だ多い。この際、二つの利己心、利他心をうまく調和調整してくれるのが、ロータリーである。即ち、ロータリーの社会的存在の意義がここにある。この意味で、ロータリアンである以上、人間らしい人間となって、職業を通じ交友を通じ、将又地域社会を通じて、些かたりとも、奉仕の精神を発揮したいと思う。その為には是非とも健康を必要とする。25年間皆勤の先輩会員のことを思えば、我々は未だ未だの感が深い。一つ思いを新にして、今後も新興金沢北ロータリークラブの一員として、真剣に個人奉仕につとめて、恥しくない、ロータリアンになりたいと念じている。



中村 省三

人間は生涯、勉強であり修養の連続で、おそらく終着がないと言われている。私が金沢北ロータリークラブへ入会して早や四年になる。先輩各位の並々ならぬ御指導を受け、今日漸く、かすかにロータリーの意義なるものを理解することになりましたが、まだまだ未熟なる私には修練が必要かと思っている。私はロータリークラブに入会して良かったと云うことは例会毎に卓話を聞くことです。凡ゆる知識人の各々専門の有益な卓話を聞くことが楽しみの一つで例会場に入ると直ぐ黒板を見て、今日の話題と卓話者を見ることとしている。時には特に有益で家族にも聞かしてやり度いと思う時もある。

次に去る5月14日～18日の1978年国際ロータリー東京大会に出席し得たことを、此上もない幸と思っている。世界の150ヶ国からの会員を含めて約40,000人近いロータリアンが一堂に集り(会場の関係で2回)開催されたが此種の大規模な大集会はロータリーならではと、つくづく感動した。人種、風俗、言語は違っていても人情には変わりなく、会う人毎に笑顔で握手を求められ肩を叩き合って祝福し合える事は私の人生で二度とない欣びであった。又当クラブと友好提携したヨバ・リングクラブ元会長栗栖夫妻と親しく会食の機を得たが、二世とは言え実に人格者であり、博学多才の方で金沢へ来られても二回面談したが、実に親しみのある方でした。同氏の述懐によれば、今日のアメリカは道義心の頹廃、又青少年の堕落等々50年もすれば危急存亡の時が来ると予言しておられたが之は即、日本にも当筈なことではないかと思った。



山岸 与作

金沢北ロータリークラブが設立されてから早くも5年にならんとして居ます。最近漸く親めるようになりました。これも偏えに各位の御厚情の賜とよろこんで居ります。「ロータリーに想う」私見の一端を記させていただきます。

ロータリーのPR不足

ロータリーとは何ぞや、私は5年前金沢北ロータリークラブが発足するに当り、当時設立にほん走されました山田、越野両氏の強い勧誘についてお断りも出来ず目的もなく入会しました。寧ろ当時私はロータリー・ライオンズクラブ等に対し何か抵抗さえ感じていた者の一人です。5年経過した今日此頃修練の場として出席出来ます自分を省みる時「ロータリー」活動のPRの重要さを改めて認識される同時に1人でも多くの理解者を作り、同時に入会への窓口を開くことの重要さを感じさせられる今日、此頃であります。

新入会員には思いやりを

入会して2、3年の間は私は出席することのみが目標でした。100%出席が創立当時の金沢北ロータリーの第1目標でもあった筈です。だから私の為にその目標が達成出来ないでは真に申訳ない。こう云った気持ちのみが先行して業務に忙殺されている中からの出席は苦痛でもあり、今から想えだ意味のない2、3年でもあったわけです。3年、4年と才月の経過と共に皆さんとの対話、お付合も重なり、増すに従い修練の場としての自覚がいつしか身についてくるのを覚えます。

人はそれぞれ長所短所があります。ロータリーに入会して、学ぶべき多くの人に接しまして「ロータリーとは何ぞや」の疑問も漸く読みとれる今日です。私の経験から想うに新入会員の方々には1日も早くなじんで頂くよう、みんなで相努めたいと願う者の1人です。



越野 民男

魅力あるRC目指して

「金沢の何処のクラブですか」よく耳にする言葉である。「金沢北」その瞬間「何だ北か」相手の顔に一寸した反応がチラリと目に入る。「RCへ入会しませんか」会員増強に努力する。「何処のRC?」「金沢北」相手の顔に稍う満足といった気配が閃く。私の僻みもあろうが、当クラブ発足二、三年の間は度々感じた印象でした。歴史が浅いから当然でしょう。然し五年前クラブ設立に当り、ホスト金沢東RCから移籍した三人で会員を求め、テリトリー内を奔走したあの当時の苦しい思い出から生れた私の偏見。更に「会員はその業種を代表する」と云う言葉に拘束された誤解。それ等が絡み合い、魅力あるRCなんて高嶺の花だと、私は大きな間違いを冒して居りました。

「最少の会員、最大の奉仕」をスローガンに、出席率100%2年連続の達成。クラブ奉仕委員会の活氣的改組。数多い会員宅でのクラブフォーラム。城北地区開発同盟提案、結成による地

域住民との結合。野球、卓球大会を通じての従業員との密着。其の他数多くの新鮮なクラブ活動は自然に会員の心の中へロータリー精神を芽生えさせたと思います。その中でも特に京都洛北RCと名実共に行われた友好提携は我々に多多くの刺激と教訓を教えてくださいました。兎に角我々はこの5ヶ年、互いに切磋琢磨し人間形成に努力を重ねて来ました。魅力とは会員の知名度や会社の大小によって生れるものではないと思います。魅力あるRCとは会員のロータリーに対する関心と熱意が大切であり、ロータリーが人間修養の場場である事を理解し、共に心から親睦を深め団結を計る様なクラブであり、更に入会を心から希望する人の多い発展的なクラブだろうと信じます。5年か、って当クラブから漸くその兆しが現れ始めた様な気がします。皆さん、これを機会に益々金沢北RCカラーを作り、クラブの魅力を高めようではありませんか。



出 島 敬 識

1975年12月4日、米沢先生、中村さんの御紹介を頂いて入会したのが、つい鼻の先のことの様に思えてならないのですが、月日の経つのは速いもので、この5周年の10月5日で2年10ヶ月の在籍となる訳です。

一介の百姓である私が、ロータリークラブに入会するのは、まさに「山家の猿が花の御江戸へまかり出た」様ななじめない気持でした。蓮根田から泥んこの体で家に走り、シャワーを浴び、ネクタイを着けて12時30分定刻ぎりぎりに例会場へゴールインするのは私なりに、「非常に厳しい試練？」でありました。

幸い、三中同期の吉田さん始め多勢の先輩方の格別の御指導の御陰でロータリアンの使命が少しずつ解りかけて来た昨今です。

私は、農業は国民の皆様のお上りになる農産物の量、質共に於て責任を持ち、皆様の生命と健康を守る聖業であると確信している一人であります。

私は全国愛農会副会長として至らぬながら御奉仕させて頂いていますが、この会は農業こそ人間生活の根底をなすものであり、愛農愛人の生活に徹し、農業を通じて愛の実践を行おうと云う会であります。職域を通して社会に奉仕するロータリー精神と全く同じでありまして、今後共何卒、皆様の御支援を賜り度くよろしくお願い申し上げます。



飯 野 健 志

昨年、金沢北ロータリークラブの創立記念例会に、入会させて頂いて、はや一年を迎えました。入会直後、五里霧中の状態を、どうにか諸先輩の暖かい思いやりと御教示を賜って、今日まで皆出席を続け、諸行事にも参加させて頂きましたことを嬉しく感謝致しております。

ロータリー精神に就きましては、先輩諸兄のお言葉通り、甚だ深遠高邁な思想で、とても駆け出しの私には、理解実行することは困難と思われませんが、二回に亘る

I.C.G.F.、ガバナー訪問、クラブフォーラム等を通じて、凡ての私の人生の骨肉となる勉強をさせて頂きました。

完全実行には、前途程遠く感じられますが、何がしか人生目標如きものが臍ろに浮んで来たような思いが致します。数年来、我々の業界は、凡ゆる面で世論の矢面に立たされ攻撃されて参りましたが、その真否はともかく、虚心坦懐、自らを反省して、真の社会奉仕・職業奉仕の道を選んでゆきたいと念じております。柴田大先輩御創稿の「ロータリアンの信条」を座右に眺めるにつけ、如何にこれを私共の職業にマッチさせ、同時にスタッフ一同の幸福と生活向上に結びつけてゆくかは、他の販売企業と同様、生涯解決への努力をしなければならないと悟りました。吉山先輩から頂きました「無事迅速」のお言葉を宗とし、生ある限り、大切な一日一日を楽しく有意義に過し、又毎週の例会を楽しみに待ち希みつ、仕事をしてゆきたいと念じております。私を御推せん頂いた清水先輩はじめロータリアン諸先輩の御指導、御教示、御好誼を深くお願いする次第でございます。



米 沢 修 一

「光陰矢の如し」ありきたりの言葉ですが、早やくも5年の歳月が流れました。私のロータリー入会は金沢青年会議所へ籍を置いた頃と時を同じくしており、井の中のかわず同然であった私が、一瞬にして世間の荒波に乗ったおもちでした。ロータリーということだ自体が私には実感としなく、三田良信元会員がチャーターメンバーの勧誘に来られた時も、驚きと共に未熟さにおののいたものでした。有難いことにロータリー、JCと同時にこなしていただける会員が私の他に二、三方おられ、歩み遅れることなき様、気付かっていたごと共に、同年代の気安さでお互いをぶちまけ合った時も多々ありました。

職員、年齢差を超えた団体とは言うものの親子以上の年代差、企業的比較を考えると、わだかまりが全くなかったとは言いきれませんが、しかし5年前の私自身を振りかえれば計り知れない脱皮をさせていただいて来ていることは確かです。親にも以た愛のムチを思い情報委員会に於ても清水先輩の指図で恥しながら愚筆を綴っております。

若輩の私が今日まで皆様と共に歩んでこられたのは「若い息吹きを！」と言って下さった勧誘メンバーのお言葉に甘んじて来たものです。今もって当クラブ中一番年若い訳ですが、今後これにおぼれることなく、集団の中の個人を作りあげ、又ロータリアンとして、微力ながらお役に立ち度く思っております。諸兄各氏の相変らずのご指導宜しくお願い申し上げます。

五年をかえりみて



柴田 三郎

私が恒例の、何回目かのドック入り（国立金沢病院に）していた昭和48年、次第に秋の訪れを感じある日、金沢北RCの初代会長に内定の安隆さんが、私の病室をお訪ねくださって、「ロータリー情報（今の修練）をやってくれ」と、要請されました。

しかし、当時の私は、新工場の拡充に没頭しつつあった時であり、且つ、ロータリーの安住を求めて、新しく生まれる金沢北RCへの移籍を、やっとなり決意し、ロータリーの後備役を願望している矢先だったので、平にご勘弁を乞いました。

ロータリーは、老若を問わず、上下の階級はなく、ひとしく、「ロータリーに卒業はない」と言うのが、私の年来の主張であったが、願れば昭和28年、始めて金沢RCに入会して在籍5年。次いで金沢東RCの創立に参画し移籍して更に15ヵ年。私のロータリー歴は通算20年を数え、その上65歳を超えていたので、どの角度から見ても、シニア会員（栄誉ある後備役？）たることを免がれないのです。

しかもその道20年、持ち前の気性でロータリーに取り組み、遂には「ロタキチ」（ロータリー気遣）とまで蔭口を言われ、時にはその筋の逆鱗にもふれ、折には「徳・孤ならず」とばかり孤单奮闘をも続けて来ましたが、次第に侘びしさを感じずるようになってまいりました……そればかりでなく、既にこの間、「ロータリアン読本」前後2編を出版。また岡田良介ガバナーの幹事役。「ロータリーの友」地区委員。1969年の361地区大会計画委員長。矢橋六郎ガバナーの石川県分区代理などを含めて、ロータリーの要務を殆んど勤めあげ、もはや「我が事、終れり」の心境にありました。

しかるに、安隆さんに叱咤激励され、その情熱にほだされ、とうとう後備から予備役へ呼び戻される恰好となったのです……ところが幸い、金沢北RCの皆さんから望外の友情と処遇をうけるに至り、今、この5ヵ年を回顧、その一員であったことの誇りと、その充実に、こよなき喜びと感謝いっぱいあります。

かくして、燃えつきんとしていた私の、ロータリーへの情熱は再びかき立てられ、意欲を取りもどす結果となり、昭和49年には、私のロータリー観の集大成とも思う「ロータリー何をなすべきか」の、アメリカ招待の懸賞論文の応募が、計らずも入選一席の光栄を得たのであります（ロータリーの友、49年2月号VOL. 22…No. 2公表）。この拙文は意外にも全国的反響を呼びこれが機縁で各地のロータリアンとの友好が展開いたしました。その提言の内容は、5ヵ年を経過の今日も修正を認めず、いささか、日本ロータリーへの貢献を自負している次第です。

金沢北RCでは、創立以来5年連続、修練委員会に所属し現在に至っているが、この間、それを奇貨に、時にはクラブ会報を独占せんばかりに、筆力を傾け、また私なりの悔いなき全力投球をも続けました。定めし、ありがた迷惑もあつたろうに……。

昭和53年3月、私が、ロータリー満25年（併せて県内随一の皆出席）を迎えましたところ、クラブの破格なる思いやりによって、その記念企画の温情に浴し、私には、これ以上のロータリーの歓喜はありません……こんどこそ、欣然、後備役に編入させていただきます。

金沢北RCの新生5ヵ年の業績は、見事ではありませんか。運営はユニークにフレッシュであり、積極的自主性と、充実した中味があります。そして、意欲と友好の協和音が、たくましく和やかに響いているではありませんか……この音律よ、いつまでも！……と、次の5年へ、切なる祈りと願いをこめて止みません。

培かひいし 花の香りよ 喜久の宴（昭和53年重陽の日）

